

RCS はバージョン管理のために使う便利なプログラムです。  
よくソースコードなどに埋め込まれている

```
$Id: hoge,v 1.1 yyyy/mm/dd HH:MM:SS miyo Exp $
```

みたいな文字列は RCS によるものです。  
いまさら RCS? と首をかしげる人も多いようですがいくつかの個人的なファイルを管理するには大上段に構えなくてもいいので便利 ... だと私は思います。

## まずはじめに

RCS を使って管理したいファイルがあるディレクトリに RCS というディレクトリを作っておくと、そのディレクトリ内に差分や履歴を保存してくれるファイルを作ってくれます。別に作らなくても同じディレクトリに作られるだけで、ファイルが多くない場合には作らない場合も多い。ただし、履歴管理ファイルは hoge,v と最後に ,v がついているのが目印なのでうっかり編集してしまったりしなように気をつけないと不幸になります。

## とりあえず使う

### 登録

編集して、保存したら、RCS に登録します

```
% ci hoge
```

スクリプトなどで登録したあとも見えてほしい場合

```
% ci -u hoge
```

リードパーミッションは落ちます

### 取り出し

また、そのファイルを変更したくなったら、

```
% co -l hoge
```

リードパーミッションのおちた状態で取り出す場合

```
% co hoge
```

指定したリビジョンをとりだす

```
% co -r[ リビジョン番号 ] hoge
```

-r のあとにスペースをいれてはいけない

## ログ

ちゃんと、書いた方がいいですね、と真剣に思い始めました。  
ログの一覧を参照するときは

```
% rcs2log hoge
```